高孫
こ
かの原
ここ文

新玉ノ年立カヘル朝ヨリ
ソヒテ法師
ハウリ人ノ色

野邊見し人若菜摘ケリ
ムカシヨリ垣子ノ草ニ春
ニニケリ

貫之

八　初春

天徳四年ノコトナレハ四ツノ年心
為家卿ノ撰之歌ニ入ル
公平詞ヲ之　原氏六歳　正月ニ

年たちかへるあけぼのそらかすみ
たなびくやまのはつかぜ
ぬるくもぬらくもうぐひすよ
の中ぶくよ雪まれなるわかやどの
花しろくさきぬるとまれるしら
くもとあづかりしらくもの
しらくもとあづかりしらくもの
心もしらでいとどおもとそけうおもへと
あたらしやこの春ばかりこそ
ぬぐれなきはるびいてんし
ふまぢくうぐひすのおとづれおもへうらら
物れ者しみそれ円の匂ひよ吹ぬびていく

生徒四

角田氏藏書

極月四し

仏のこゝとあ[illegible]ゆさそ[illegible]ゝよみとけてやそ
らよ位なし[illegible]ゝさうてぬ人ごしわゝや
よそく[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てそう[illegible]とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てくさうぞくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
もてつけて言ゝこよひ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
だしてそ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
さ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
しゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

出国ハ高器六本ニシテキ
シスハ一ノ臺ニ餅大根橘
ソモルヽ此餅ハ近江ノ女キリ
ノ餅ヲ用ヤ、ナホ
新ノミセモモヤトノカヾミ草
ナキナカ(メルカゲノウカヘル
古今
萬代ノ松ニソ君シノビツル
千歳ノカケニスミントヒ(ハ

年内ノ春トミトハ遠し一年中ヲ云し

出国トハヨヒニシカタヘル
トミ(ハ

ゝなゝゝゝのいそひとゝし[illegible]
ゝゝゝのをゝゝゝ[illegible]
ゝとゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

古ノ大伴黒主
近江野ヤ鏡山シタテ名ハ
ナヲテソミユル君カチセハ

行末モ多キ松ノメデタキニハ
君カ千歳ヲカネテフル事ノ
ナケキニテヲキシ松モケフヨリハ
君ニヒカレテ萬代ヤヘン

三笑改ル

ふいとうしやうしつとうへよハ
こうせをうんとそこぐ
まぜついそい字し
春たべし
うそ水 御鏡ノ池ノ鏡ニトリナシテ
めうけ池のうこうよハせよくすり
たくひ
ものさげでものべうげよめでしされいのもい
ごしうう

茶

くりうのさけ池の渡よ百代をそいべき
原上禁トノカケニ
けそをうくしうくるぬごとよつけてしをそこ
禁ト原トニ
をそこれ禁トをなるまのうきうく実しうう流
えをよ日し
ふしるみのの日なわうけけよこせれれとう
けていうくんよことをわうう日うう姫君の

大伴黒主

松ノ上ニナリ鶯ノ色ヲコソ
加賀ノ日ト公ニカリケレ

今日ノ会ニ初言ハセヨ雪ノ
言セヌ里ハスムモヤナシ

ぬうこよわうう流てうれどわうしもしけうなど
おもうへの山れ小れいきあそぶわうきうくどれ心
ウレシカル
らどし玉ぬなくうう小のおとぐうわうわぐ
原ミル
とぐましくをあつめうろいげこごしわりご
宣ツクリテ枝ニツケタリ
ぬどを流ぬてうえうぬえうれ枝よう
カサリうん
つうう学しうう心あうんう
姫君ノ成人ヲ母ガ
年月を松よしうしてうう人よう学乃
古人トハ四九ノ年トシ
姫君ノ文ニテモ学ニモ玉ハレト
姫君ノ手ヲキヲヨ公有カヒモナシト云ん
ととせぬ星のとと学ぬうと
原心
げよ春とあげ
原ノ年始ナレドモ上ホメレ玉フトシ
姫君ニトシ
うしうとしうえうれし
羽
うれうう
姫君ニトシ
うれうう学流初
世ナレバ萬ハナキトシ
言ありうこうべうう
うこうのものうそうとそ

れそぎりうゐうゐしうせもせられいとう
けうげうてゐ言うへゐるのうぞゑ
天ゆうれありうゐをいまして（作者ト少ク違ヒ天ヲコトシ）おぼつうあうし年
月のへぐてうらしづ（原ノ者ニ）えぐまし心ぐう
とゐを、
（作者）引別れ年ゐゐ（芳言）ゐれ者のそゑ（作者）れ
れ（世ノ言ニテ）ゐとわそれゐや（やゐ）ゐうゐゐ心ゐまゐて
（言ニ口ヲ入テ了ル）ぐゐ〜ゐてゐゐ（原心）ゑれ（作者）れそゐうとゐ
どこうゐゐぬけゐや（ゐ）いとゐづゐうゐてゐぐ
とこのまうゐうゐ（サニ言ヒ了ナシ）ゐゐうけゐひうゐ（ヘモドモ）ゐてやゐゐそうか
ゐ（ゐ）ゐうけゐひうゐ年月ゐうゐ（ゐ）れ心

出テイナハ心カロシト云ヤセン
世ノ有様ヲ人ノシラヌチハ

のへぐそしゐ〜ゐ衣ゐうゐ
かぐうゐゐやうゐれ（毎フショリソヒフシナシ）ゐうれかゐしひゐう今いゐ（ソヒテナドハキ）
えぐゐうゐ（流ク）ゐうゐしつまゐ（ミテ）ゐうゐ
もゐの裝ぐゐゐ弟ゐ
しどゐそうゐをゐや
（衣裳ヲ云ヘキ文鎖リノ付ミヘタリ）ゐゐぐいげゐよゐ（ツヤツヤキン）ひ（明）ゐ
ゐゐどゐいうゐさうゐゐこゐゐうゐやゐうゐさう
（ツヤノカヅラノコトシ）うゐゐうどえひうづゐてぐけうゐの流
（髪ヲ上ル）べさい（ゐ）ゐ〜ゐへてゐうゐゐゐ（乱髪）ゐうゐ
うゐゐとうくてうゐそうゐくゐいゐ心ゐ
ゐうさ人のつゐうゐて（列）ゐよゐゐうゐ流

しらばかどに対面のありてよいまつ秋は
心のかぎりし人のれ心のともさともらしたて
ふるやうりと云ふ仮こまやうよりうう
のれぬ波かどるつしく実に成て面のさいく
[illegible]心[illegible]去年十月ウメリ三ハ
もけるひおしくもこれしてかしげかわ
らくべのそぐしあまあしく人うげのいまう
そてれいこうしいあくべきうざわあしぎこぬや
うるつれでくどいいうしもうのくれてねとさ可丸
ふくしよぬさるげよそそかしれ仮ざうじ
こしあれおしげとうして山次よして衣装

もやしれつれいうじらかどいとをやよ家
そうるれうとうあるる所かくる所あく白い
さくくとうくこと所かくさ所ぎこれ仮
ぬこひよこづを仮つ行のこわざうやうこの
そそすうしかそわてさぐくよるうしる
しいとぬさるげよ家こいとけざやるる
き所しれつるとうくてこざくまうえとあも
かそよつけていえしらしれれまどや
くいとへどそるくこなり仮へど花ふよへ
ざうあるくわやしきざうての心らもこれ
らひでまるるぞあしれ仮うもいとお

唐東京錦日本ニモアリ唐ノ錦ノ上品ニ花今紫ニ白地錦ヲ東京錦ト云ヘ

原門

ゆこしばよりわう心らしてこそうし心や
そはいうかひわをたこそあくもてかし
なていのあくこるじ（原本花君ノ方ヲ誤ヘ）
なれうわ琴なくへしいとけ（北ヒウ）
よやうこ（十五ヒ）しのへうとりうも
もうくへあうこ（誤ヘ）原本ニ有ウと実ハ行ヘ（ヒ）この行人（ヒ）
まよそいて実ハ行ヒ（ヒ）さしあうことそし（原）言
ぐようう行よいのしれいこよわう行ヒ心ちう
きわこのアをあうわこそれ内
れとひ風ふまあしく吹にかうてよの
わとよけこくあばうさうじこいえ

（原本ニ）（紫ハヨキ人ニノ）（ヨウラヌ）（アサハカノ）（ヒ）（紫ノコト）（原）（ハ表ヲ云シ）

えぞ、でとこまくこれよそうれあうち
にざくこくこさしだうらしうを
うつこのふうしのうこ（東京錦ト八白キ唐錦ヤ尋常ニトヨヘ）（わや）
ここ川こうこうこ
ううとこわざことめこようあ火をけよ
ふうをくもこうこて物ごとよこあうよ衣
殺蟲（ケガヲセジ）（特ニ）ひうのれまじへういとえうよみひど
のこぬしううこけうしそらうゆへあう
うこざ母つうこことくこうこうなどよ
しぎれてぞやそくうこそひうわ小枝の
れへしとめづくしとこけうまよ表ウ（ヒ）

惟成
寄鳴音長生ミキヨナリ
花ノまろフミウヨカサラナン
新年ノ年寄ヲエルアシタヨリ
ニタレモノハ寄ノコヒ
梅ノ花リケル密アル家ヒトバ
トモシノモアラス宣ノ声

ゆるとしうさ山ぜて
めづらしや宮の御ぐしよまつらひて云の
ふるそをうつる雪声
さけうとくべよ家
なくさあうそらあどうさまぜてあると
うてこれひてぼ
あうでさしぬしてうさそさこれ花よ
めざわ出てうすごうこのめてうい
しこまわをさてやそさおういうを
花人ちいとうとあげそこうさよけぐ
やあうこのうれそうさぐうあ花

花ガニウスラグ
ようそうさよいうし
てうこうれぐ花新てこう年のはこし
ぐれもやとけまし
とれぬ花あげしこと
とさてあげそみかこ
まぐうくごそまぐ
ぬうこしもあうまぐ
ようおしうぐるぐそ長よこ
ちこあまけやうくと
ぐうれ花ていかう心れ月
くしあうういこ
ようそうさ山ぜて
めづらしや宮の御ぐしよまつらひて云の
ふるそをうつる雪声
さけうとくべよ家
なくさあうそらあどうさまぜてあると
うてこれひてぼ
あうでさしぬしてうさそさこれ花よ
めざわ出てうすごうこのめてうい
しこまわをさてやそさおういうを
花人ちいとうとあげそこうさよけぐ
やあうこのうれそうさぐうあ花

しるべとれい[笠]の[ノ][ノ]ふ[ノ]ゑうわ[ノ]ゆ[ノ]ゆ[ノ]ゆ

世ノウキメミエヌ山路ニイコヒニハ思フスコノキタレナリケレ

そけちめことよるんわしらるゝ（源ノ方）のこゝろ
車のあとしぬべくそ成れにしぐはいをち
その中は世界よまぶいらけざん心ちも
くやと心やすしげうまてひゝぐれ尾
よとゝるれ成つれ（末橋宮様し）ぐゝを年月よゝてた
しくの数はこまるれどせのうさあてぬ山
路よりひのぞゝへて（源）隠しなうさ人のれ心と
ゞ伝のとうハこをりごゝろんそのかれ心もとか
くさびしさことゝあけしゞとこるひの
ゝ成へ（宗好し）そのまゝごれるくつゝあれのゝろ
げのさうしのゞくゝ（末ウム）ん心よいれ成ん人ゝ（末橋）

ヲチ滝津メキ水上ハ空モリ
花ミナラレナ思ヤスキナシ

忠峯

その孫ひよゝこゞひ（世尊ノ方ヲハジ荷夏モ不足ナキ心し）ゆまやうよもうゞし
さをゝそゝしうゝ心の孫ひよゝこゞひに
しうそ成ゝうゝさいはゝこ（三月ヨ）ゝてわゝ
成ゝてひられ文のれ（末橋）こと人の花ゝれば心（源）
ゝく言て人ゝのゝうゞわゞいとゝく
もてゝ実し成ゝ（末橋ノ）ゝさゝわゝとゝしれわ
ゝゞし（笑し）し年ゝよゝとゝ人ゝさゝまゝてゝうさの
よゞゝこゝゝうゝけゝゝれゝゝゝあゞゝと（源心）いとお
しゝとゝばせゝゝまゝはゝもゝひゝれゝゝぞ（末ノ衣裳ノ変し）柳ゝけ
ゝそゝそゝ成（紙合）ゝゝわゝれゝとゝゝわゝしゝさゝゝ
成ゝうゝ人ゝゞゝうゝゝべゝしゝひゝわゝもゝるゝゝろゝさゝゝい

ヤハラカナラメ

ほのぼのとしてくもりもなくひさうなる
ようちきぬさうぞくしけよ心ぐる
しきものうちきかぶといいまかしうよ
うのんだれのえだわ庭のもまざうゆぐく
をやうよりかしもあるぞうちあげられて
とさうまうきぬ帳いさつくろひへでぬ
めでさうしもあぶしうぞ今さく義よか
ぐされ心の程とあぐしきれよおとけよあさ
こし故つれさ後義うう〻うくよもをるべ
てのくるぞいとあしくるしさ人れいは
とあぶせバ義よ初ぐてよそふとれ心とぐあ故〻

原後光ナサルカタニモ

ヒタチノ文ノ心得金トニ〻タリ

原ノ外ニハトシ

古文ノ玉シイトニルト右ニ有

しわうぐさぞうしれ忘おどしいとうしげ
ようらわるくさてつてひあ故ぐるひ
ぞれぞぐもれとうろまゆう人ゆるや
く心やそきれ世かくぐいてうちとけく
ふさ後よ〻こなへうそもけらもべどう
てろひうれよそひくあいあくうんと文れ
ぐぐこちくうてくすまわひ故て羽醍醐の
阿闍梨の者のれ世あつひ侍りとてさねこも
しえぬひ侍てうんぐぎぬとうへうれる
後さしくるとやふとぐいとうれあうさ
世そうとうりけうと心ひるぐ

ヤハラカ

綿入ノ名ヤハラカ

ロアツク

ゴトクニシク

赤見

ニシキノヤ

アザリニ

原心

原心

狀義ノカハリト云ハモアリけ年ニテハナシ

ナヘクニ分ヒ重子トカラ衣男フハ八チ重ニセアリケル

貫之

なりけるとはせど、家にていと
まめやかに、木男ノ心
なりゆくを、思ひ出でてこそ、
山ぶきの花の代衣よりつれて、
しさて、梅ノ花ニ衣ハ重ニ重モカラヌヤウニ
おどろかれぬ白ぬの衣にあるべき
ものらもれぬ、愚ナル心
しらぬ、ユヘンリ心
こうはよまれて、六条院ノ
きとひしとものづつみ、ニシレシトモ
院のこうけもせてこそねやなどせ
あれこう所しあけしどそこれにあれば、

ひとこうてあまへのあらだうわでいとか
もろく紅梅の花のうつりあどみやや
そくしあきをこそ、
原、東院ニ云
うぐひすのまれまおよびてあつ
赤梅ノ方ニ
あ、ぬ、梟ノ名ナリ
れくぐわうくしく、宮上梅のあまぎもしの
でこそ、ヒゲスル
やうにぬぐ、ヒロリ
さをりてとこうひたるうさ後衣よこし
て、弾仏のうぐもとあくもとうこ閑伽の
ぬしおどしおうしばげよあ後やしく花心で

せんとこゝろあらんのけしきひろうあとにびろ
本丁心ぐんかしこさよいつくゝゝゝ

限リル別ノミヨノ中シケレ
誰モ命ノフシミラメ人ハ
カラ天命ソシラズ忘レシト
思フ人ハマキリハリワヽ

やり給へとてしたゝめ給へるを人ゝおほろかなるのぞきわらひて行てあけるをきはうぞたもちあれど心乃中しをこゝろぞあんぐるあるゝの別れとそうしろめたく侍れ命ぞてゝぬるどもつゝくの給いづしとし給てつけて長とかぼしうわ祇てとあるあるどもぬべきれ月あれ給あれどさうしとくてもてるれくぞ前よつけ人れ給よつけてのまよくあるつゝくおそまもいかどうもの心よりてあんあれ人

月十四日音京中ノ遊士月ニ来メウタ舞ヨリ
ヨセリ今十四日ニ催馬楽ウタ舞シ

内裏

清らう朱雀院よりてつぎよは院よ

六条

べ年月をへるこゝろいかとこゝろうけるを

月十四日音京中誉
月ニ来ニテ拍子フミ
ヨウウタイテ大家ヲ
メクルトイヘリ男クヽワ
カハ其ヲニナヘリ近代
絶リ今十秋百歳其
学トナリ

のの方のえをぬよ反どくるもの上をあ月うるれりて笛れ舞し
いとありうく吹うてけおまへくとよ心
だひしうれけうくぬえよわわ行べく
るてれせうそこどしけわれしだ右れら
わこどのるどーれつかしつておそ西の
ういの姫君をうんでへの南れれるよわう

水驛　舞人ノ所ニメシ
驛路ニメトヘメリ其驛ニハ
馬ヲハセラトホシハ人馬トモ
水バカリシノムシ人飯ヲ
食シ馬ニウラヲトカフ
飯驛蕨驛トモ云人馬酒
水ニテクラフ水驛トモ云

なてこのしの姫君よりいとうらうらへし
ひと所よりおくしぬせどこまてなりへぐそ
なし給ふ雲居ちきさいの文れいこあどめぐ
とりる程よ東しやうくあけゆけどうづし
まやうてことそぐ世なべさいと何あることよ
ア所よりあ所ことくくていうじくし
てこやまも流げせさまうづき曉月東よ
雪こやうくうつじれぬぞまぐうく吹お
ひしぬそきまうづくしをめべき程よ何と
父のなへどかうよ
ぐわうハこやうう

水驛　農應ノ
人馬酒ヲ
飯駅ニ
人酒ヲ
恩居
なれ
雪
ア
ア
ア

西宮殿ノ 鶴哥ニ沙前
奏寿詞

う海ことぶきしれぐ祝ニテ実ニレハイハヤトシ わぐらこと ことさしのさくら
ともとくさくらかしらゆきこおに
ぐらのかりろうぐさいやしいまぬ
と御のわらぐ綿ヲ玉ハルトシ さいわらわてまぐぬ 秋あけ
そめれぐれ引出物 くぐくわらぬ
の色そうあるのごもりてはこくあこれ
中れのふて 参線門 参書 ツリよ長後、紅梅ノ古天ハトシ云声ヨキ人し あさくを
うしざるいはやていそくどしもひ出れ キヤシリ
かひよそあれいすつのくまとよ 長ハ云ハ こ
さうやをぐれうとしもあるわんあけ
ぐらそぐいしはのくよえしもまうぐわん 音ヨリ一ス

中れなどとばをくをうきあけぐ 天下ノ乾坤
よまかしてくとうえこい玉てしかづれ 原ノ
わざれぐううくあさとあそるれ 原ノ似人
よどこしうど れをるよいかのをこうを
雲井 友四ガナトニ天キ人有ト 雲井 しべうれ多そうあをくよう
らの心をそそう
あううべぐわいうさうあり あどいてうつ
うとあぐしうわんくれくらぐき 春興 催馬ニ云 原ノ ハルハニキトホメヨ
ひよのあてくこのこかくこれどひあてうれい 六条院 ニシトヨム
でよいそのねね 女楽ヲミタキトし 心ニてくれわうてを
豫寿 ヨトコヒニモ すべしとのあてれことぐうを
きてくろぐもしてひわとをあてうを白ひさ 松年

出てそ千のごひてゆ（絃ノ）ゆ（え）べふとうてのへさせおい
かどそ（ぜ）ぬ（ん）ぬ（ん）ぐ心づ（ぜ）ひ（ん）ぐ（ん）して心げさう
とせうゆ（ゆ）ゆ（え）ん（ん）し

（能楽ハ楽ノ遊ヲ（ヲ）ナム）

花園ノ胡蝶ヲヤウ草ノ
秋待虫ハウトリノミルラン

△胡蝶　寛喜年二　歌詞名、初書同年、係年六歳三四月

やよいのころのはるのまつりの日かりの喜（笙ノ音）れおきへれあり
さ波たちてにほよ立れいろ
（世界ニアンベキ時ノ乱世所ノ様ノメツラシキ様ヲ思ヒ）
多れ（ル）ゑ宿らの曙よハまぐ（ま）ゆ（ゆ）ぬ（ん）ゆ（ゆ）やと（と）ん（ん）
（ト思フトイ）
づ（ず）ゆ（ゆ）ゑ（え）し（し）ま（ま）ゆ（ゆ）山のこぐ（ぐ）ら（ら）あ（あ）ら（ら）ぞ（ぞ）海のわ（わ）
（ヲヲツリシ）
ア（ア）ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）れ（れ）ゑ（え）ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ぞ（ぞ）わ（わ）ら（ら）く（く）ゑ（え）ぞ（ぞ）の（の）し
（失格ニ春ハ延ニス）
（心ヤリ工三又改ニ）
け（け）ら（ら）ま（ま）心（心）ま（ま）ら（ら）く（く）ゑ（え）ぞ（ぞ）わ（わ）ら（ら）く（く）ゑ（え）ぞ（ぞ）の（の）し
ま（ま）ゆ（ゆ）つ（つ）ら（ら）せ（せ）ぬ（ん）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）
（原）
ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）
（舟ノ袋ニ）
ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）
（ヤウ）
ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）
（六条院）
（舞）
ゑ（え）ま（ま）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）ゆ（ゆ）ら（ら）

ゆう春待ソノハ秋省ノモミヂヲ風ノハラヒ冬ミヨ

うれまさるそのそしとしげもし君し給てし
けりくうしはばやとあげしおそれしいそで
はるのありけんせきをえとあげしの浜どけ
いでるくてるるしはるひるるわ雲をとりてな
そび給べきあるひとわるき世界ゝられぬめ
でぬべきをみよのせ給ふてられ池と
こなるしよこをとるあるせ給ふをらい
ゝさ山をへぶそのせきよるれどそれ山
のさきまわこぶしまひてひんじたけどの
よこのゝれわるきくへぶのつかせ給ふ新敷
首をとれよそひよとゝ三ゝつゝひて

枕ゝわゝふかきそもゝゝとべられゝづゝ引ても
ろうしでせてさうあ月さうあ池の中よさ
出ゝれどはゝるの三てぬはよゝゝゝん心ゝて
長よありゝくゝゝあゝゝぬ世界あどいあり
中将のいりはのいゝゝげよゝしもてゝれ
どもあきいしのゝてぜまひもゝで給よ
いゝゝんやうあゝこあゝゝあゝゝそゝはゝ
ふ梢どゝゝきを引ゝゝゝるよおまへの
ゝいゝゝくゝとゝゝやゝれて又をまゝゝゝ
柳枝とゝれゝゝゝ系もえもゝゝぬ白ひとち
らゝゝあはゝはさゝゝゝ桜もゝさゝゝ

水面ニフヤ吹ミダル春風ヤ
山ノミドリノナベテノムラン
沙氷ヲ今ハトワラン
百敷ノ苔ノエノダス山ナヤ
人ヌル人ノシトヅレモセヌ

伊勢 友則

よ[花]ぼのとぞ[文集]ながめやる
ひかけゆきくるまてゝ池のうちよりげとう
けしら山吹さうこうこぼれていろどき
さわやかに水ぐるごしもれたびとしあれぞ
なをびてかをさい枝どもとひてびらぶ
[東ノソルトテ]
その波れあやよんとまでへうかどぬの
ゐやうよしきこうて海かしき海とよの
れえしくさいつべうこひつて日をくらせ

[芹乃花]
見わけぬ浪のをうへ多こうてこやなに
[名]
うら山吹のさきさい
[有明ニアリト定近江ニアリ]

同
その池やめでの川ぬようふんきし

れ山吹そこしにかつて

同 [遠美山ノ云]
鹿のよれ山しうひ[ん]みれ中ま老せ
ぬるとい言よれこさん

[不老不死ノ薬]

同
その日れうてようてけ[ん]くさうかの
をづくし京ぞらりうかどやうのそうかき
とぐもを秋心ぐよいひそうてけ[ん]も
へうへ星しわそれぬべうわうさへどの心をう
けせようとうわうれの面よるん[地]書うう
[皇]
祝よわう[摩]ろうとうぐあもうくはゆう
よ心よ[イヤヒドモシ]もあ〜ぞけうどのよう[ヌシ]ようせうれて
ありぬ宴のうろのいとさいとそぎうう海

よあまめしさよふけぬれわすれぬ人ぞし神も
をとゝしとはくしらうさうぞくうち家ぬ
こゝまぜさらにこさよとゝぞこしろう
せよあらんそやづうるかうぐこしけうまつて
まひくあど心しとよえうもせ給て人の心也
くべきものうざわをはくとせりふ兼よいう
ぬれどいとあねぬ心らして此前れ座よぐ
よぐうもしてこうれもとのうけれうへは
ぐくへて上達アみこうも皆をあく
琴 ひきの次のうわぐまうぬ地の姫ど
とよをくれううざわそうでう次ぐてう

催馬楽
アナタウト今日ノタウトナヤイニシヘセハレ
女巻 麦

汝音ノケサカラユトニ
サユルハ春ノシラヤアラタメルラン

催馬楽
青柳ヲカタ糸ニヨリテヨケヤ鶯ノヨケヤ鶯ノタフト云笠ハヨケヤ梅ノ花カサヤ

へよまうらうれしとだれてくべいとをあやよう
きうてあれううとしてあそびりふ祝いうひ
あうとあよのあやあしまてぬをづれおしこうど
れうあいまあをこう車のうらどよまうぐを
てふうこさうえこさくうあ花のいろ地の色也
れうくべひぐこいいとこうとよまさわうけげ
めをくぐあばうあくらんしもそこいそ
びあうしぬうくうふよ呂ヨリ律ニウツル 書ふうらそひて
蜜 芸アて文あとべぐこあり催馬楽 キストヨム
いぬ花ひうじのあとぐしもとくくん拾集也
けぬあさがけの香れさしづうを中文しぬ

サヽ石ノ中ニ思ヒ有ナカラフカ出ムコトノカタリニモ有カナ

紫ノ巻ニモテハヤシ玉フシ

紫ノ巻ニ源氏ノ君ノ御ヨロヒ

羨

原

ケサウズニ人ノ六条院ニ参リシ由ナリシホヽヱミ給ヒシ

ヨキ

無

原

人ニシツケテセンイトおとゝの

サクアリテ

葉ノ如クニ

原

別服ノ兄オトヽシテフノケサウジモフ

玉ト兄オトヽ夏ヲシテフ

暦

のあはいとうゝ中わかどいそきめぐらす

柏木ノ文

蛍

原ト中ヨシ

ものはかなく辛じたるこゝろのうちもしらせて

助言

ヨシハレテ

けどわていまハ行

好色

さゝぐ

ソラ酔シ

こうそうぐして

ウキ〳〵ヒシタル体シ

ダメ〳〵

原

おとゝし

玉ハ人シ心ヨツリサセントヲボスニ且ツトリ人ニ心ヨツリスニ

強

ぞうとたうとうけれたいぞよい

九重

ヨリタルフリニテ

羽

玉ニ心ヲカケズハ

退出セニモノトシ

辞退エノミニハテ

蛍

玉ノ御ノ昼ヲヤウニシテ玉ハル故ニ重ノ二ヲトシ

友

関シ元

侍勢

所宿トメノヨシノ君シラズ
ラセシナサレシヨリハセヤ
テヲツハセメ

蛍川

源蛍爲ノモヲ奉ル

歪ノ

原

原

原

らくしよとして露のまよりわらひいと
と哀よりあはれさてうゐわざとひしぎ
かどしうけさしぞおまへよわれらいと
ぐやのさはうてしらよはうぐもをやしら
ちはとしうへごしみそしれもとよわて袋ども
そうぶ音のへぐいうつざてはのしくへさせ
給ひしそこ原の中われ見して実法師
袋でのこてふをさへやさ春よ秋
まつ門秋の四三王ノ君ハ春ノ花園ヲ
ハナタリ見玉ハントし
文ハ心
ものうらんのまみられれへ
ものうらとはうてれへぞ嘆はの
冊パリテ哥ヨこし
秋ノ文ノ文トサン
ものの文えあとさせ法

白キ一重
白キ細長三ヤ
コミサシハ足緒ニ
コミミサシハサムム物ニ

まどろろとて袋よりかれて実はいて雪
のうらうるねよりれぐ袋やよさわ
こされていけのわしそこくくあくさ
えづをわろよさ楽急ニ
おりうたてしてくあくさはよ
こびうらて山吹のませもとよ吹こがれ
しろ袋のげよまひ出ろ中文文ニ文の先けをとの
てうへうへうへだくうわけうてれへ
よのふちよはさてのかそおがてふ山吹が
さうふれろうてししうわへうやつ
物の姫ごしよはうろいとくさ

初音巻ニ男踏ヲ有ル所明石姫君上巻ノ上ニ五ニヨリハシニセヒル帳ハヤリ〜ヘメテ、玉カスラ別白アル

新古ノ梅ノホツエニウクヒスノ音ニナキヌベキ恵モスル哉

君ニヨ〜ハ八重山吹ワシカリケルヘタテヽヨレル君ニヨリエテ

かどつさくよなよなかぬの花よハうちはかそふぶきへてせめのさうぞくうげけ拭れいつて

モヤラキヌノコトシ

文句

さのつを孫よ感ぬべくそい

新古ヒ

こてて

よしさそそれおまし心ありて八重

業ノ

（ゲテ関ト云ル山ヲ山吹トヨミタリ）

山吹とへぐそざわせいこそいりくるもくれらし

山ヲハホツコ行テミシト云ん

業ニ秋ハ

哥ノコトハメエニジキニ時ニアメリテハ色ヤウニヨシマトシ

よラウトモ心更説ニ哥聖古ノ常トシ

れらうこしようやうこ

言

耳ドトシ

こつやうよそそうしぬれいらつさこしあわれ

業ヨリ

北日ノ

まよしとやうれこもの世有遊

秋ヌ

文のよハうれけ

業ヨリ

ゲ傳ニ九ル

しきあるとうぬこしをそのふゲさうや

れしとくもうしこしこしはつしあけうれはれ

けてもうれもうるさいあそびうげく心とアビリ〜

やりてそぐし給へどうふぬくしをつしぬか

りひかさ心ちしてかんこかるいうあくよし光

うしのふぬのうれいれ別西のの後ちこのくこのしもしうハ

のあうれれ別西のの後ちこのくこのしもしうハ

モノ心モテイシホメルシ心ノコヲキアヤキ（ヤウニモアスベテししてハ和トシ）

し給やうれれ心りらぬやいさくしいるも

あうんのぐきいと（上ラウシキ）ありあつうさ心

ぐへごうしてくへの心ぐろぐくしわれれそね

人のうはうれぐいづ（業賢ニ出ダシ 業花散ニ出ヲキド）

モ心ヲハケモフ

アもしれくへいこあもくわしれさしどおで

ノヤノ心ハ

ぬ（ろけよ）

ハ

大形ノ古ハ

氣ニ

よしきくよあやうろうまぐされ心や

そらんちゝおとゞのしたてやゝてまかど
そしりかくしもあり　廣れ中ねしそうし　実ノ兄オトヽ
けばくしそのもとかどのしわてれ　ヲフエニシヲヒニキ
くんらげうす　実ノ兄オトヽ　兄オトヽ
まうあせどさうべこさ狂と人どして
おくれしを中ねしくこてこひも　乳母
おくぞ内のあいとのえぐちいけえよひ　伯父　実ノ兄オトヽバシリ主ヲ　三ツヒテ
れてうげよ気多どうびわうくをの　実ノ実ノオトトシリ主ヘバ
うれ義よはあどでこよ心ゝうなん
まこのあやよさしてれううれと
人ふれぞ心よけ新へれどうよあう

実ノ子ニシテハケウセナラオバ

実ノ兄オトヽ

実ノ兄オトヽ

実ノ兄オトヽ

ぬひかぐらとうちとけぞ多いとよ
ばいふ　そアてれ　の程　ぐしそし　ぐはま
こきもびごとば　とときあ　ぬ　れ　ぬ
れらんじつけてこ　ぬやよもひ　ぬ　昔　ぬ
よ　ぐうとぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
中よは　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
よぐぬれぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ふぬひてやよ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
れ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ひぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ふるにしのしらそばだちたるこのうさぎ海いまめ
かしてそばだちたるこのうさぎ海いまめ
かしてそばだちたるこのうさぎ海いまめ
きめいでくるうまをとづれさてんん人
とゞんえうしていとをもとをこさ
くさてあざれがよしきいはやうれしとの
じんかいしとゝいでかどそうとのこれこゞる
ししかぬとあり紙ひしよ紙
かうけなうしめうしうもしそれありよそ
じそんるうやあり思ハニリキん

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さるもあるぞ又あまもわの海士てぬ
れ人しれずあるさ海よりさぐりてそのさいな
ほどもいとしのとしひさしよりこゝにして
衰をもわさりの人らとしそへ海人かゞ
海へで玉そうちそひきてかしもそてあ
いとかうしげかるるでしこのかそかゞよし
ごろの袖れろかりたこうちさいのもしけ
ちうしいまやきてもてかゞしさし人
どもかゞ海てうしかゞわそてあり
かりそうかうこよれをいしいれ人の
京人の有はえ見れ
ほさ海をこそうかまるいとさ海よりか

しゆうよけさうかゞしも心てもそけ
海へれでいとくあるねあくをやるうけ
うけかりこと人とうれさんをいとうちか
しうべうかばさうをしらうこてこ
てまつりてあしとうしかはけかわく
おうしまやそうさかあくびあへうんを
しもかうひやでうしうとこひあうる
さうよ人のいせうそこかゞいうけうこ
とかうぞうさゞくしもうしやけんゞ
ろうつうけてひさうんうとあまし
しもいゞとそれこうれなゞる

大臣ノ子ニテセミノ名ニナトノ時ハゲフ〻ウトヽ云下賤ノ云ニアラズ

れどれいうてきうよりまさしさを治ふれば
ありんがれとぐるよりいとまあばいく
ふとまゆえてけわうやうしそばれしう
しこぐぞいとこうこうこうさうとかて
ゐうてけんぞれぐうれてうれうこうめ
てまうわうよりうそ四のあはいとの中ぬの
けまうぬこうことわうとよりうこうこうは
ふけうえてゐうまいこうこうしゐうざわ
しうそとまゆれぐいとうこうこうとうか
げうこうもうれぬううちをいぐいと
さぐうこうかんゑぐとうこうぐとうこうぐけ

當座ニ面白ドスニムルシ
此巻エイ係ノ作ニハサヲイヤ
ヤリモラ

ようかうぐしもかしぶまぐきそあはれ
きうゆまもいときうぐまわうこうこうとのげ
うこうひわきうせしもそわれ付ちこうこうよい
わぐでそいひまぐきうこうこうきわうあこ形わうかこが
きこれおどせこうこうもううとこ行こぐうう
かようやわと実ゆうとあうとあをうこうこうあ
でまうきこはうれわとぐよこうれなうう行こう
こしもぐこうこうわうこうこうこうこうこうこう行のとかこ行
よこうらうこうこう行こうこうれこうこうこうこうこう
こいぐとこうひめぐうこうこうこうれよれこうのあ
ふうこうようぐこまわうこうそこいこうこうこうこうけ

実法元ノ
アラハレ光心シ又コトクシレクハナクアレ
アラハトニ云ハ
レラヒ玉(下)

玉ノ情ト光ヲノ夏ノ
ハヤクモ
原汀
玉ノ
原汀
玉ノ
ハ
玉ノ
ハ
玉ノ
ハ

めでもはしたなくあとにてをとこ（蛍）ひとりわぶ（本妻ノ心ノ意カ）
ばかりやうなれどくるしくつらくあぐめいてら（スキテシ）（絶）
しかれどあのまこと（テカケモシ）ふかのうちなる人ごと（見トカ）にくげか
やうなんことにいにくげかりてあるといれん（ミナラシカシミヘ）
人こゝろとよりあぐるハズノハレニスバ蛍ノ室ニナリヨヘトシ（テカケノ方ヲモナハズノ）
しつよくせあるうていくよあれめべきとか（レストノ）
じをあづくいでこゝねべきとそのれ心づひ
あんあるべさ大れるこうへいろ人のいろ移び（シ）（ギ）
をぐさらといとくしひぐそくよもしじるれど（本妻ハ狂乱ノ人ニテコレシイトヒテ永玉ヲシ本妻ハ蛍ノ子ナシ）
それしくどわづくもくるうさもなべい（同心セヌ心）

とるれどさうなるあんくれぞそひぐ（家人ノ心）
めるのあるうざなれといかやかどのもさハ（主ノ後辺）
やうよ和ろくさなとうわいでぐきこと
あれどさぐるわのれよるひのもあくぞへうくか（ヤウニナキモアアルベシ）
どうなのごとをしれ心よハいれしざくまるを（家主ニ心ヲ蛍ニ心ノヨルハイヅレト）（今ノ別）
じしざなるあぞくへて母えとこかいあれ心（ワケ玉ハサラシトミ）（我ニ）（ハガラニ）
よあうざくんとい心ぐるくかどいとまあや
うて実ハ知へぐるうてれいくあしん（心）
こもえれそぐいとわくこさしうそ
えてて何ごとしこひてなぐわくなど（ヲ）
まあやかどいこぬりのよあくひはてこも

くしもろ法師ぞ人と笑しれさ侍のい
とかいてうるれしぞげよとあげ侍て
世のことひれ後のあやとそれとあげ侍てを
ろうるぬ心ざしれ行しこあるうるそてれ
てんやかどうらうてい法やあげそさ侍れと
しまぞ白れしぞえ出れそ気多あるこ
とぞくときぐまぞ法へどうらぬさ侍
るれぞそぐろよみあげれてわるわ法侍
へらうさられ竹のいとわやうよりい立て
うらるびくさ侍のあるうさようちと
まわるて

まぞのうらよ根ふくうへ作のこれと
のぐよくうやあひまうべさあり人へどうらめ
しくべいとぞうとそとひうあげて
笑しれ法へどかざうあ出て
へうさうよいうるうんせうわう作のあひそど
かうん孫とばうるうん中よそ侍めと
まれれとひ長と受うるうさうい心れう
らよいさしあもうぞういうあんあり笑
いでんとそうんと心もとあく長るれどひ
おとどの心ぞへのいとありでうさとあやとう
ぬとしもとうあれれてねいえう

こしこはやうるゝぞやと音れ流をこゝろよ
しやうく人のありさ後世中のあるやうをみ
こゝ行へくいとはるまうし心しとゝ水れを
じというこうべうあるべそ原いとゝ盛くいとゝ
うしとこひ実し行へ恵ふもうあるあ
ないやこうあつこうさ人のありさ後ましはうう
かうれいまへのこゝ行のまうわもうけ雨あるぞはの
うしけえこゝのありさ後しこうめくく
けちうこ心ざ後そいてうしうあくこうぞ
そこゝれあどかあ行へ恵心ぐあるしあ後ぬ
じきれ心ざ後をこう紫行へれぐ恵こうあ

紫羽てゝの心しけべくこゝゝ心得ヱシトし
しうちとけ原ヲあこ実し行んそ心ゞる
れとの行へ原羽ゝどこのゝ好色ノ方ハナキトし げあくやいあ
原べきと実し行へ恵羽ぐいでやるはまてしまく
あびゞこうわあもこきあくあうしれ
心ざ後のおりい生こゝ心トリナトキトし ゝとゝあれ心とゝ利根ばいそう羽
原後忘こて実し行へ原心
そし恵こうれ紫ゝ紫ゝ原色ヲ人ニラスこセアラジ
じとてわゞこれしの行へさこて心の
うちよ人のこうこゝこゝあ行あもいぐはを
べこんとあ原しこうゝ心ヤウニテ心ヲナキヱバ

文集
曽月天氣和且清
緑槐陰合汐堤平

文集四月和且清
清和天買

[illegible]
[illegible]
[illegible]

五月三ツ花橘ノ香シタヘハ
昔人ノ袖ノ香ソスル

けてをれぐうきさのぐうしとうくてを
きつうつぼとくてこをうは夏やとれこ
こひのそとれえうそあぐますぐれ覚てう
とじかよとてれをとうくはれぐれ
ふしかうひれくざわつとひとうてわば
いれどあとうなうさ海ふてれ
柚の香をよそふううよのみさ
てうくあしそれしつとこひてう
つぐはうさ海いうぐうあつうあつさ
のけぐくとうを海へうあるうぐつきの
こまやうけうはげうよおうくあうれ

こひをこ心ちしはひてをふしそうこをを
ふしてせはひうあを心うくいうはせんと
ばしてわあくうを気をこれれれど
かあくうかくうとまうといはばひういとよ
くあてくくしてくくあこごあらうべくしあうね
心の花でよきわげあてとうてくくしはへ
なくくしこひふしまもあふべ
れをせよあらひあうまぐさ心ちうんそう
とをとづれ実ゆうくごよはばしあとそ
べくやしあういとうふうき心あうくてせよ
あうぐうるべさわぐるれぐうしうるく

瓜生竹夜窓間郎
月照松時星上行

おしとそとの松風しとさうこてあつれおや心か
ぞこ　ゆ　　　

三條実房
限ナリ名ニヲフ女房花ナレハ
ソコサモシラヌ色ノフカサハ

まてうやうけをいとゞしく思ひ
して いうゝ良なる 祈れ心なるゝしも
をうるはかりさとあはしてうれし
いとうくあはしくしてくしもやうと
べうれしくうる乗しわうさでいでぬゝい
うとゝ祈そゝいと心うくそあべれよそ
のくてうかれゝくあるぬそよゝぎわ
あくそこあゝてなる心ざしうれたくのゝこもべ
きさ後よハよしあくゝさでしうこひ
さあゝくさあよしうあきとし実しんあれ
じ思ふいくかゝどいとこまやふ

実房コヽニナニテ
不意
辛ホ

実房ゝゝど祈よしのぬさ後していくう
しとあはいうれゝさゝうあはいこなう
ぬれ心ゝくといとこよあくしにくこあふべう
あうれとあけうさ祈ていあうきなくと
とて出れぬゝあゝしれうこそくゝし祈ひ
にうれあれ世中とうう祈ぬ中うもを
ううらうあれくうくのあうさ後をゝあ
を祈をあゝこうれうあけうきいさ後よしあゝ
しあうゝこのあうあうあうせ乗とあけ
うさうとうこうさしあうしうれゝくあれ
心あらあまうけうようし祈ふとあてさゝ

まゆごもれ（原）（朱ナシ文円）ば人のこまやかなるこゝろざしかくしかねそなる海士のれいはやとまゆれうきようもあはぬしるくいとかしこ流るゝかど岩ヤかどしまびて（おんな）まゆちよつけて（おも）いとゞあしもぞよ心づさかきれ心（原）のありさ海をとうとまうこひそれ（毛）れよも身ぞ心うるわるまもれ（代原）ありこれ文（む）うくありあやまちてり物へれど人ゞれもゝでまかど系りてれうくと変ゆれゞ（き）ぶくよゝ流ゝうされうゝべいおいらるゝくしきよいとゝでうゝい物（キトシ名ルナニミ）（笹ノ文ハ色ガミヤリ）（大ヤウミ）

てう文円ゞひかりしが行（毛）きそ作ゝうもわれそれゞこいる人ゝをりゝん

うちとけて（原）ゝ恋しゝぬをわゝるれとありゞかるゝ山そゞ（志）ふんおさ乱くそゆしのひ行れとさすゞよおやゞわゝれゝとゝもいとにうとゝかてれ人ゝうゝと変ゝゞ（志）心も人ゝあやゝ行れゞやゝよゝあゝゝこゝられ（アツリ）ゞゝゝよゝゝゝ文円ゞゝゝ（志）ゞけ流ゝゝわぬゝゞゝわ心られあゝ（毛）ゝ行れゞ変ゝさをぬとのゝあゝゝよゝゝの（原心）ゝさいさすゞよゝゝゝゝゝと思ゝゝてうゝゝ所あゝ心ゝゝ行しうゝてあゝれ（地）

慈円ゴヌシネタノ私ノ大方ハ
色ニ出テヤアハントイハヾシ

心れ、いろよりぞ侍てのちい初ぬ色ぐのまろ
のとあれ色に出てこそ
ムカシリ源ノ丑(アハントイフ)ニ云ヲ
れしとあれ色ぐ(まこと)ぐ思せ心らして色
形なきねこひつきてしてなやましうさ人
しぬてしこの心をろくくをかしてう(人ゴヌ)
ときしそこしきしもしげれおやぎぬよこい
実しうとうやれうきのすりそでぐ
いうじう人見てこれしうさんまし侍べ
さうれちかぐ(カ)ぐかどの涙をうれ侍てて
しまあ(ニゴメ実ノ子トハ七リ玉ハ又程ニ)くをいれ心ぐへまもしあざんれ
しまりてしとあ(源ノキウウ)つ(カリ)まちさてお

ぼさんとまろげよやそげろ〻ぞうこぐる
文大ねおどいこの(源)れ(ナド)色多もて(返度ニ玉ヘナド)ものれぬさ
まよけくへさうていて初へぐろよ実れ
ひいしあるゆ中ねしおどの(源)れゆすとまて(イこと)
そうくこうわよかの実てまこと(兄弟ノコトシ)のそぐをぐ
てぐぞうぐひくへうれしてあうう
うこ実しまどひありくうわ

(東京本ニナシ)

志ハセテ別ヲノミコカス
愛コソイフヨリ二サル
思ヒナルラメ

△愛　　玉櫛笥　三　以哥詞答　源氏六段　九月廿五アリ

いはしろくとしくるとしの（大阪大ヒロシ　天下ノ掌ヲ握ラサメモ故シ　梅枝七段ニ玉フヒベシ　光源氏ナドモナルベシ）
やうよそうこげやうにはわさ（原ノ）なれど
さはしさもあつうくさはぐよつは（若草二）
てうれうふさはよまぐまちわしぐよしてかて（六条院　東院ニアリシキニノ）
でけるまかしくてそぐ（原ノ）ぬいとのくろのか（原ノ）
ぬとあばしうぐうあるひとといている（六条院ノ西ノ北ノ方ニ）
しさはよいかぞくぐ（筑紫ニテ）ぬぐうう
くもぞよ（親ヲ）ようけてしくのこひちまゆべ
きことのくひで心ひ（ま）とけよおぼつてさは

ことよりとまりしこひ実し給ふのよごとと
と云てこうにうれしきもひのしたごゝ海う
うざ海よ云てあつめて母者のおもせぞかり
ようりはしまうしまきこうの人しあしく
かしくあぢゆ(原あとゞ)しらいてそあ給て
し中こ心ゞるしくあげせど人めとをゞかり
給てをるきことしえ実し給こぞうり
しくしあぢさるまきよこけくをうれ給
ておまへのへごとくのとやらあつてこで
あゝぞうさこだら実し給ごとよひのけぶ
れてけゞやうよらうかく実ゆべさよい

神代ヨリイト云ハ五月雨ノ
コナメニ人シミルヨシモ哉
他ノモメム月日ハ元モノ
五月雨ニ寸ヘリニ元哉

わゝひでゞこ云てぬさ海よもてかり実し
給へざ海のわらくしよけらくゆし給へで
(原実底ニナシ主ヘド)くくまちあぢらしう心らし給へど花ち
くわいぢやうつこくうけちひのこえて給へ
ど無アて文ちどいまちやよ実し給れ
らゝの狂しいてゞくかぬよ月毎よ(宵人ニアラズ)
(五月ハ夫婦ノ日トシイム月ト)めうれへと云給て(ヨリ文)けぢうこ狂を
よゆう給こゞこうとしこうこうふ
けてしこれと実し給ろと度(ほ)けんじて
ゆ(羽)よう八け元逢のそこ給へ人しみ形けうん
しもてこかしれてもかし給そとをして

れいとうけいこ実し
[illegible]
[illegible]
[illegible]

心にくき行末にほうてはてくるいと
そうさ海あやまハあるてしつてきれさうに
らくのまそごよ義よさし宿宰相の主な
どしくのれいしくへ実しんとも無しぞそぐ
しくてゆうをしりかわいさつこ
ぶへでいとわるるやうさて身つかれ
そうのうさされしもうさよ人うこあ
そうう文のれいけそひしいとえうこうう
わかのやく返風しいとこうきれ白ひれこ
そひうれでいと小くうりうてうして
ぞうこうしかうきれけうひ心とめ

行くうう心の程とのれひけけ
ううの紫かうれくくひさうよそ
さくこういあうでいとけうひとうう
かうでいとかうしかのさうそ姫君、東
宮のあれ笑せうそこけうくをと
つけていあうあつううきれうてう
しううううけのとさ海ようさひてそ
やそうれひううよわひ行べき海よ
しあうぞけ文ならとさくしからう
くづよあ行くまうさとなうこれ

ゑそのしこのうちもそうけらくるよ
そのどいさあまてあ（どいとわりあてこ
とづけてしらいへ行ぬべきれ心ぢくうしだとさ
ぬうこざ後よわびしくなしぢぐうしてもや
れさしあうれは本帳のもとよりこそ小
行てるがるとうしとうがきれいしくまし行
としいなくあぶしやそふよわ行てげん
帳のうこびしとこいとへうらうけ行よ一度にしてオクルヲ金デハナツミ
ざといるあいそくとさうしてうとひきれ
うかうをうそこさうきよけタつること
くてうとさうていわとけうこくし行て

何ンモナク

うとうきわげあくこうひきたくうみや
うて俗よくけしうえんよひうりうよ行く後
てあふぎとさうしくし行へうこう
あいとかしげあうあどうくうきいわえ
へで文しのぞきのいかんわがしそあとあぶそ
どうわれあぶしよくまでの行あうくぎ後
ううあどしとくしぐうんへといえ
そうそわ行うぢいとうとき行ぬべき
心まどうえんとうまへあうき行行う
まよしのわが姫言といくしもてぞさい
ぞ行うぢうそのあうれ心あううとう

何ンモナク
アキラカ
明ラカ
コシラヘ
ワキ道ヨリ

ものやとてもぐり出てわれぬ蛍人の
かてもの行さてもわとてもとわれがそう
けちらさかけらひもろよれ心どさのこ
れ行てえのぬうそものこびられひまよ
ほこれ行へうよひとあどわへそそろみ
もしかさひわれ水母の
くとおしとこ行寝しなく母ざこう
てくしけれどほのうなひわえんあう
とのつまもしもつべくらかのうれどそびや
相ヒテ
ものうそ行てうやうういれおうしわつと
のこそ母してげよあれどと心よもこよりわ

蛍

なく声しかしぬ生のこひるよ人の名ろよ
蛍ノキエニシトシ
きゆうぬいこひ行やと実し行うやしれれ
くしとこひまこうんし物ちげうれどとこど
ものとで
声いせでものとこどそ蛍そいふ物
さうこひのうちなどしるくまなしれ
物でこいきこれれどいてろよ
そなし行うれうしさをいうどくうこ
実行せきこどこうきやうれどの行しあう
そのきれ東し月雨ノ比しばこ
く出行ひぬけるかどうるこそうちかこん

しうゐさくれどえそさくしもごろの
ひかどのふかゆきしさいとうおとれえ
よゐけをうゆへうとくどしめでまくるのべ
いとあはやぐらてけくろひ流ひしれけひ
とらくいとてあ長ようこぶけかとる
いふ姫きくくさすうかうれくさとわづこ
づくのうこぞくあやかどよこくしなり
世のくのさうさ海うてうくうれ心ぞくな
らきくうばかどいとにけなくしあくま
くよにぬをりさ海それわよせぐうやかん
とかさくしあばくやすさうはまとよわ

しげかさ海よハもてなくそどとかで
をあばくくれ拝さうれ心ぐせあれぐ中文か
どもくとうくうくやうひまく流くさと
よわれつくでかくぞまくうごくなど
海くどやんどなうさうくとびかさようど
らくくそかうくうあうくくまく流ねと
ひきくくのれさ海しはけらくくうくよと
のづくくひまびどくくうくくくくくくよりくくくくくく

じめかくよ生れくるつのでよわり行て人いよ
でや文く東やふしし行ひしくしあし
ずしじらづくらツヨキ好色人トけそひ行てくくぞやく
心やづりぬのあやうらもそまづさくくくく
そあうくれかどいけこうしいすしめお
くそうれさ風うきせぞわくさよげよこ拡
ぬやしえしこばうだうあうれぞよれかて
くうかくくくあれうなしひしいづこくく
れうさよくにうあくんけせのくれそあ出しう
とこしぞぬひれうしくぬあやめしくくし
ぶくよおくううばゆうあうあどしこ

ミカリレシシル五月ノ子ヤヤ
ナガキメメシニ人ハヒナナン

貫之

ことあくいかくうしうわぬべされいあうう風れと
姫君あいあばそ文ようれいかころあうてうきなれ
やくうそれはよくいとよあうてうきなれ
へくらう行そおうしうわうれまるびいづれど
ことなうことなる平ヤ
昔ようくくやいくくしかうこくれよあうう
ややの祝のくるばくくいうあうきいでい
けべき祝よしそびつけ祝へればくれれくく
かどそのうーを出れぬうれれあとと
ゆしぐれ心よしいでばくく
あうくれていとばくくもくあうれや

めしわらべそのぶしの孫のわらくてとぶら
かのようぞあんやうるもとゆまそうしゆへづけ
うてしと文くこのまーされ心よいさうの
ぬとくらゐ人うしくもゆかどえのぬさ海
そて所ごうわあるわらあばーこづつる年
ぜのろおかきこれあうさ海うて心ゆるび沼と
しあ手うよおかーくい人のさぞつぐう
れしとなくてしやしにうれといぐあばさぐ
らん家くと東めれこるもうのぞさ沼いて
中ぬめ久のれくこのるつひれつめでよあこ
ごし引つれてぬそべささ海よひーとさる心

雲ノナケキミ　斉ヨリ臆シモシ　ウ　ウ　ウ

そわらやうはけをていまめさうそ
（友白ヲ用ヒ白ハアラキ〜）
（スリゾ 濃 上ハ白クスソシ 紫ニシクノムルヲ云）
そこのかいた帳だしてもういたしたら
（ハヒモアレトヲ繋ミシタルヲ云）
へかどさ海ようふさうぶぎよれあこめわこあい
（アヲハナ アカハナ）
のうそめのうぎこさうるもうもべでめれさい
れあうこのまうしくるれうぶうの四人
（シ）
人（ミ）もづくあうれそそごのしかでこ
のそ紫の文しうしうきぬ仁くのよそひ
（五日ニ相應）
ぎしまうよこのくこのいこさひくくるよるで
（変後）
しこぎうのれうぎこかどあ（シリヤカニ）ぬとうそとの
くいどこどかのうもてかしこ所あうわ
やかうう屋どくるどいめとそてて仁
さどむひつどのの時どわよ馬場れおを
よ出おてげよみこうらかそうつどひうう
（的ヲ乱）
ゆづひのあ屋やはげどよはきは（六条院ニテハ 禁中ノテハカイヨリサヽカ代）うそわてそけ
うちうきつれうあてさ海とよ仁くめしく
あそびうしし狂（ヤ）女とかにのあやめしたくぬ
（先別 菖蒲ノモシロイリ）
ことうれど舎人（近衛ヲ云）ごしさくえんううきうそくを
（勝負ニ云ヒ）
けくしてうよ（勝負ニ云）るげうう屋まどもしか
どどううぞおうしわうう蘭（紫ノハヘル）の町しこ狩て
うくくとあしぐ海のあ（東ノ新紫ノ方ニ七）しうやうのわうき
人ごいきうう形（タヽギ）楽（ラク）ならくん（田楽）楽納蘭利おどあそびて
うきけのうん（乱 声）さうどものくうう乗よいう

そなのずしこしぜひなりてぬこの利だの
祿之前ぐ流るるこくわけてくぐ皆あげれ拾
いぬ[原]ぬ[原]ぐいこるくこよれいとあごもりぬ内ぬぐ実し
拾て、音アて文の人るわくこよるくぬし拾れ
くこらぬぐいもくれ拾ぐまいけくこぬとよ
しるうぬいざやくつくこうる者なるる恵ひてこ拾
いつやるくとくへど拾れそれしとの拾れぬおこう
とくこそぬし拾へど拾びぬこるてそこし拾び
くく辛れくくるるこ六年院、うそれるじつび実し拾
と実拾しぐじしのくらるわるそけのこを
るし性ぬつるなしくこよくそくこる

調
ぬぐ拾びぬこるぬ流ひよくれそるれみこくぬ
し拾ふるしぐけこるひぬるて拾者ぬ乱久
るぐぬし拾ひくるくと拾の拾へぐふくこ拾び
くくるくぬ拾せぐぬるくぬ忘くて拾れ拾
しぬしこしるけ拾しぐくへくるくへくるくつけぬくと
ぬぐ流れくこいふくへくいこくくくこ拾へぐ
右大ぬぬぐくくるくぐこ心ぬくくくこくくよそるくとぬに
ぐくるくるくくるくくく

ものしそやうでと存じ候ハ大ようなる
やうしそでこそ御ハ辛ばくはりか
よりけうれ御そびごもとくづてよおしきて
ゆうよりふやうづしわつうとだうとぞこの
まうれそ面目トラボスし
そのこ後しそきうくしとばしう
あやあらふやいさつうこ御ごう実ばかよ
むうのとよしもうしどあしとそうしう
にかごわうよりけどなのうわうご後ハそつうの
やうしうしきしうしうべうこうばいうしうあうしうれうしとうし
あうやうタのへうそわうやうあれどうくてうを

そども駒ヒスヨメス菖蒲草
ヤリミヒ人ノヨヌカワビシキ

ふこ心やうくうそあうれしとたうあれどうれし
ばどやうよおそうくうば後あれしうばづうれて
実しあうれゆうとばゆづうれて九帳
引へうくそあうのごもうけうくなど
あんそうとばいとにけううべうさうとよお
りひしうれそうれしうれべうれしうれうら
ものしあれうぞうかあ御の辛しわしい
うしてううくうあうれうぐうれしで
ばうしうくそいそのうして
しあうのれうくいさやうのうとしもう
あうそうかうあうれうこうそうあ

古今序

貫之遍昭ハ哥ノ中ハエダ
ドニコトスクナシダトハ絵ニ
カケルサシミテイメツラシ
ウツガヤスガカシ

ものゝいふにはしてやつくゝ見しとの
をしらるしなどの言うきこゝいとあしおもそつき
かゝぬわらくなまこゝあうさ海くよあづうか
ふくのうくあどと海しとやゆうやひあ
けやうう中ゝもわがゆりさ海れそうなうかな
うゝうとこ沈をこよりれ水者のさ沈
をくんかうてをいはの世れあづしを
花心とあうようぞへれこがはどくしう
をくんかどどうれぐんがゆしさはあがしか
ぞくへ故ほこと寄こるくこようるぬどもの
うりてはやよくあしれねぐはれしうしせこ

人ヨクイハレニト
草紙
絵ヒ
草紙
イヒリバリトシ
イヒヒ
ヲトロウ
絵ヒ
草紙
絵ヒ
絵ヒ
絵ヒ
草紙
絵ヒ
絵ヒ
絵ヒ

日本記神代始至
持統天皇御宇
廿巻アリ

えり出てくよろこびんとていまこの世
間のやうにさことをうわつうつる
ぐるまうけうけ世のかしこるぞ人の
こうどのざえれうけ書井種やうやうとかるかりやゆと
れゆのことあれどだ者いまのようとべしぬう
さことわさきこうのけらわそけわひかるよ
そそごとくひとそんしとの心ごひてなん
あうるる佛のてうふそうさ心そられ
とき法へられ法し方便といとけうてさ
うなきものしこ変うこごうるごひを
さうべくあへ方等経の中よあれどひ

りそゆけどひとろひよりあうて菩提と机
（メハ改ニ天台ノ法文ヲ改テカケリ）（ハ天台ノ宗ノキハメ）（方法一如）（志心）
ほとの為ごうわるんひんのようきいのしさどう
ものこというそわうるうくいへどもべてあるよど
しじのしこぞそうめやめ法といてとわざと
（メハレコトニ佛法ヲリカケテ）（平代ノ）
れとよしれ法ひなうけうてうるうるのか
（原ノ自稱）
ようまるるうよごうるうるもりの法ハ
（愚痴）（実法）
わうやいうごうけどゆされの机れ心の
（行ハ肉ノ化ニモ）（ソレトモナ）（ホ）
やうようなくそうばゆさそうハ世う
ばうごういざ（キノコトヲ）ぬひかきはうてせよた
うんさんとうしうて実法へどうかをり
（玉行）
れて。こごそうるとハ世流

よそハ女房ねべさかれしとの給へ
ぼしめしげよそまいあさ心ちされて
ちの給へうさ後いとあざれうち
こひあまり昔の給と弱めれどあるよ
うるおそうひあさ不孝ふくうかれたる
というくそひうれとの給へどうかもと
うげたるじれどとうさやうていうう
うと給へうう
かうさ法を弱めれどげよかうう
げせようあれ心しごあるる心とう
しうれどいとうしうしうれたしぐし

二月十四日 物語名ノ名ノ名リ 今八十

ていうべさかれうう心ひうされ
も姫君のれあうへよとづけてぬ汐とすて
ううあぼしうあこまりぬ汐の忘てい
ぬといとうさうう忘れてうんぞ
ちいさ女君のあよ心しあていうし
給へう所を昔の給へ紫上昔ノ有様
み給へうう後あ出て女君
まうて給へうようべく心のどけさいん
よ何ざうしと男し出給へげよ女ひた
かうぬことだいこのあつめ給へうんし姫
君のれまへうてけせあれうぬ汐とかうと

きこえ侍ひそ（隠密）みて（母色）心つくらぬものしそあめど
しおしとよはあ（ヨミハヨラネドシ）れ祈どうこと世よいかり
くらとこるあれ祈らんへでゆ（不宜）ゑとこのれを
（明石姫君ノハ原ヒツリ）こよかしと（ヨミハキカヨトモ誤リ）（実ハ此ヨミハイヒシメ玉フヨト恨玉ハントシ）心とこ祈つ
べくあ（業汀）うへ心あさげ（業ノ給ノコトシ）へまひごしハみか
もしこくこくいうくそうつかれ変もられ
ものしそあそいことをかりよしらぐし（クヒミナビヤスツ井ニ春宮ニ入チ玉フハアヒリキルトシ）（アイ〜〜）
きくへてあやまらあらんれどそくよりひ
ゆくゑ志ものきと仏ゑ（用ヒ）ゑあうそひとやう
かりとの祈へぐ（康汀）うけ（現世ノ人ト口）の（昔ニヤギラストシ）しさそあらべる
ふひとぐゑくてゑうをもしきごとて（現世育人ハ家ニナリテ）

（ヨキホドナルガヨシトシ）ようまへやう（姫）あらぬあやれ心
（ルモ恋ニ入メラ入テ恋ニ）うぐうてあしそそうくのこあしきをい（ソレヲ怪シト思テ）（大ヤウナルシ）（又説ラナガニシキトシ）
（イキカヒアリテ）ゆうをてあしそれうとあるうふよ（此ノ帝未老ニシテアリ）
わぐをそそうつきしでとあやれをもぐ（其ニ入テ）
きへこいやふくくそいとをけげよさい
（作法トミ）（其人ト作法ニ入ルハ上育）へどそれへのけしおとうしいうひあり
かもぐしし（業ノ）そ紫れぐうわまむゆくか
めとそうよ志いそうわぐひ生ゆうれ（ノヨメル狂ナキ）
中よげよとうしまゆうとあさいとこを
ゆそうわぐあうきべてよへぬへよいそひと
ほめうをじあどじけ姫（業ノ）あのそんそれ祈（ニーウヘレヌヤウニシ）（ナンナキヤリニト）

まづくとうんげよ学しの於まくくれ心中アレ
ウシロヅノラク
結ヨフラクムラスル
ざくくかこさ昔ぬ内しあるうを心こしよ心づき
年半十七
かしくとあばせばこうぐくえうつくるんうこう
ハヲギタキ佐竹尻ハエリ出シ玉
の〳〵を絵かどゝしうるを沢うる中わの者とこ
素イヲリし
かくしよハけごくくそるし実し於一れで姫者れ
れこくよハこうくるあら実し於こそるこう於
黒心
ものせめ祝くこそくてしおかごとすれど
今ヨリ反度シ玉ルトし
かくしんせとこひやうよれこうつきこひきこぬ
ふくくしこそうわきてハ身ゆべられとて
黄ハ花ハ黄ノ三し
南かくそのこそれうちハゆ一ぐいうん
ア二十アレハトテ
所の女房れ中くゆ一ぐ於こそ白ハ黄ハ
ほのれる
ぬまくくおこを也

ぬれかくくひそいくくんごとかくくづき安
えれ〳〵おびうくれ心ものわかどしいとぬく
ちくはやうよめしれ者れでうろやそ
くこうゆづけくもいくけくうれひわれのそ
びかどれけくひのうれでうれ心人のすうも
よのそびてきこて年月のまげこひとる
れでひめかめこう文づくいとうくし於て
かくくよけ年月ナキ玉サシ
きかうよハくかこれうれこそしけりめべ
ものくくあしどくくこのこ真実ニハメノミラカテ玉ハヌし
ふくくよかどうハこうくんと心こまわめべき

をしこりてあとざうごとよりあつて、れうれ
こどもれ紬とこしかとてゝれとこゝ心
れこそやんごとあさかりよいこまわるのれ
ゞらよりどうづらひまどこうもわるうの
うまゆすりすひしもろべうめしどゝしと
ひしれくいてくんのしとたこ七年
しとこひとこしこしとわそしてこてさこゞ
こどもうよハをろうあぬ袁とつうらせて
ゆゝてムキ
ゆゝこうハいつしゝこゝ
ハイてこミセヒハメトし
ムセカメ
ゞしあまゆゝこしあどれこうこゝとゆゝう
ゞ
ゞ
ゞ

れかでこをわすれぬぞ（雨夜物語）
ものの
を出給しことあれどいつゆゑよりんぬるか
わらはやの心よりいれてらうげかう
人をりぬこてぞぬうとをべてゆと
いうんぬかんいうよりしくめこかつまかう
うらさびしくなりぬるといひてやをさ後
そをぶれやをうんごそしくてしまし生こ
ぢと表よ尋しわうえ遠ゆしかゆ
うなうかのうをうんめこうでうよ心れ
をさいよまをてうまぢをとしあるわ
し中よ見ていとをうをべてのきしよ

しこいざわしんのをうのさゆうしてを（温ウラミシ）
くをくかうわうぬのくさをひいうとう
かひうことのはあしさをけるよの於い
生中はかどいさしもあぞれを於うと
人のさ後ぐよつけてゆるつづき於へうゆ
ぐひぢよ祈かしわをけしもれしねいと心
うくはいかくえを於うを羨て於ひていて
くあてをうりの相人のかてあを於うよ於人
年比れ心よしをうれ於ぬるとく人れりよ
かして実を出んやとおしうわうれぢかるれ人
れるよ於といかるくかるうといかるうと相人ノ言トハ

よゝあんあるしけれぞ

なげしの法とあるゝ

極ノトキヲツカミキ也ヲミハ
モトリ垣キノ〈ヤクッキン

△常文　武蔵　年四　仮哥詞名　源氏六歳六月文

源ノ
いとあつさはひんじてつどのよ出給ひて
そぐこ法中ねの君しさうぞ殿
どゝ給なまこさうひて西ぶうあるあり
いつさ川のいゝ鯉ザコ　鯉ヤうれりのかまへてて調
じて給そ何の大殿れ君遣中ねれ給
ア給ひて給り給て源ア
とつあうくゝし給へうれとてあるこさ海
ゝうひうづかてそい水水し底ニヤトた火し今世ミモアリトメトニモし水飯干飯ト被ノ読トし
うどこさつて風ヒミキし
ごうよくあうかこさ元
のほうはよなうかど

松平本ニヒミヅミキシト名テ
モテナハノホトヽアリ、
ヒニツ
日本記文氷ノ水酒ニヒタシ
テ用トイフリ氷室同ヒヤ
カナル水片

ウ出ル色セメテナト蛾ノハノ
イトウスキノカセ吉シケニチリ

蛾の色みどしいとうすげよ少れで
氷のうへしろく無像のうすくさえ
ひいのつこゆるんやとてうわわ
無礼
ぬてうとうはもあそびおどしもさ海ど
アツキウス
くうそどようしぐさそうれ文
ぢくそわうくんぐくうんれめび
ひまくこうね祖よ変ようそどよ祈うれこの
ヒキエハト
ぢせよあんとのそこうぐうく祈ふ
さうめべうんと徐てせりへあよと
ふくあきるびにうう心うしてせんれと
徐
もあぢつうすやかしどのぬへどぢぐしさ
弁米ハ茂伝法心

そてうらんで実そんめぐうわし芸てひ
しこまわうやうてうれいと涼しさう
うんよせふうをしつてうふてひぬいでさて
原門 ヒヒハキ文テイ・ノモノ
しとでやかぐのさびかうぐのしをめる
ヒヒハキ
出てかしづさ祈とまひ人ありしぬこ
ふうやと年めわようひ祈へぐ羽ぐりさ
柏ノ
まぐいひふそべさいしとしはぐざわりけ
海苔
蛍米ト奥ニ
きれはかい美ぐうわ志祈りとかのさ祈
ひり安ニ毛ノ
うへうあの祈ふんうこうつべきしとあうと名奈
出行りうと中祈れたうん安つけて海とよ
柏
鰯ノ腔鰯縁ニ
さやうもうぐしめへきまうやはうとき
ヲトニ姫ト
てんぷらバーハシキ文

ルイヨリモ他ハナシテ是一ノ
友ミシルヘシ成身ヲナセモ

ぢうてひのくらうくらしさうなしえそうの
らぞげよりはやづしきせうくわうろんくじし
さるなるろうれとそくのうわとものづしげ（家）家ノキズトシ
（複）くへなるわざよのくれとまゆまよしぬくわと
あげひていとあ（羽）（ルノ子建ノ）ぬうつてよしるれしくんを
くくくわとさるてるのくんぐくつけさ
でしいとうすしさよすくナキ（ほのぼのよスクナキ）
いさぜまはしくれどくのうしぬうくさいと
やくくんぬよそやくしひさそしもてくあれ
くることよあうじしくくくくごうぬさ
れぬくのうし程よそこさうくそなぬ水よ

（原ノワラミナレメルヤウナ）
（原ノ出ス）
（ルノヨ、テナキコトニテハ）
（ルノワワキトキ）
（ルノ好モ）（アセキワミ片）
（ルラメトヘ）

我皆トノムヨシノミ君モ
イラハヨナシカサシソサ
シテコソハセメ

伊勢

やどりうあきくくもうあきやくれいそうのう、
しとはうさうてのの（ゆめ）ぬしくくくく
さくのくうくくるれしくあうしくそわ
わと変作後といいとくくくしとこいくわ（メイワク）（原ノ汚）
（原ノワカラナラハ捨トシ）（重井ノコトノナタサノ玉つし）
やさやくうのあらでくくくいろくくくるる
名れ後のよにぬくくんくくあるくうくよ（重井ノ近ク君ハ兄ナリ）
てるくくさくんよかでくくくとうのくくんとろう（朝暁）
じ行やくうくやくくくく

てあまは（無念）しかりの（閑人）さて流へうとお
ぼせうらうらうら（後シ水ノ面出キセシト原ノ）流よつけてしぬい
れ姫君をうせてうしんはわれづらうらう
ぬるうてしもてさかされ（ヤ同字）ん（ら）やいとは
うくうくうくうひあうあつきあつうへて
ようきあうきけらめしけざやうりてく
やしくもてけらうらうしうしうし

あ〜し、あどくさきとぞ。面どの内
まう狂しかどよ。きてゆしく。
べくめうことるれど。けや栄のあ。ゆうらくの
ふぐ〜。そそ狂れうわいとせよ。そぎてこ
とくそうあんひこあそべうめうこぐ
ぬそやれどさ。よくれそごといひ
じょつさあ〜。てれしめべいう
でうさうう〜んへ。れうされふきはうて
としうんかどさう。ぐうきまよ孫び
ふ〜とはいあんうるあ心ら〜うるあどさ
ゆうさ。ぬれ。ぬまへようぐうそうさ成義

かどもうへされ。ぞかでこれ。とこ
とのへうう〜のやまとのませてあつ
くゆひあ。てきこうぐれうゆどへと
いうう〜ぬ。ぬうらうわて心のまうのし
ありうぬと。ぬうぐそひつやそふいうく
ごしあうな心ひうかどしうあぐまれ
けてそやそうれ古中ねこまてそう
そづまわて心そづうしげさまうわでいぐぞ
をづしさこぬやそうとあくしぶさうと
あうれそかどの。中ねの。そうくうのさ中
よもそぐれておうしげよあまめさ。

中ゐとつとひ行てそ
雲ヲユルさぬるし
おとづれはいかゝし
蟲の聲ハ秋ノ
ものゝあはれをしらぬ
そらにてそ
頃
あるうつ
ゝの中よ
秀ハ主張ナラズ
あはれ
ものゝ
テイヤ
問玉つ
親ル中
とゝやとの
問玉つ
ゝ
ゝ
ゝ

ようさるしあてせてうけばうしまあ
しきねの孫ろうことくさとてべもてふ
しそけるすやけねよさるごしみるくの
あそび地の（楽器）ひやうしトヨム　とこしこうきやまとごとくしうあうみぜて
きくしなくきときくこうとうしひろく
言葉唐ノ変ラシラセヌメ　ことものととさてぬめうあとるんあばや
おるごくに心とぐあてねるごようきいのをを
てるくひりく（和琴ハフキモノトイヘド）ふうきに心とてあよごわしあ
らぞるごくメまうしとよいきうこというく
きしやあんうごいまくけ内のおとくよるぞ

らるんなしうしうきうくるあさおるごをば
きのねよろげけのねけるこうろひてい
ぬうしもるくそいひぐきのぐれとうわ後
ぐ（かゝ親ノイシ）のぐ心えていそとあ（死ノ和琴ノ中モ）ばそとうれご
いうぐうぐうて（玉羽）けうろわよきわめべきれあ
そびのあうるごよさうあうるんやいやきさ（ツクシだミたくゲ上手下手ハナキト思シミ）
（毛ノ田舎ニ居シ牛）山ぐけるごの中うもうるひづのいのまうあうこ
とるしごをうべて心やうくやうそ思後（玉ハヒカルモカト）
つれさいはうぐれうはうとうやあうんと
ゆうしげよせちまの心いしてうあへれぐさ（原羽）
あげまうそえれしうぐうるうるうしど

コトツイハモノ〳〵クツロウヒメル
サマトヽ

コトツヰキヒウテツキナト
云ヘ〳〵コトツキ成〳〵シコト
ツヒイトミナクトアルカ玉泉
流集ニ云 キヲ何トセ源カメシウツリシキヲカ

ハ命のハあそびよりもまづゝんのれいきとめそい
ひとのゆこしてこそ家よハこれとものあやとし
ゝうそあやしそれ中ゝもあやしきろべ
きハよりあひきゝうゆゑてんて心とうう
なんし家よりあどしさうべゝんあうよハね
しゆゑんをけとそあしまそおどいさ
らしようきゝうゝゆゑてんゝとやゝゝゝ物
れ上よハハづしめゝちも心やそゝゝぞれこぞ
あうゝさうゝとしつあしよハきゝゆゑてんゝて
ゝうべそうひきゝゆゑとつひゝゝいまあう
ニゝかゝしゝゝれあしもゆさうゆゑやゝんとあや

和琴ハ書司アツカリ申セ男官ハ帯書ノ家ヲ女官ハ書司ドモ

催馬楽

スキ川ノセヤハラメニリ
うやゝうカニヌルヨハナソテ
ヨヤサリんツヽ

唐サ
五丈嶽 ゑニハ五丈ゑ
丈ヲ思トヨムス（女ハソノ
ムシテヒク〳〵シトヽ）ゑヌ
ヲ思テ蓮花ヲミテ
リ曲ヽ

れれゆしされうちそひてこのしてうてさくい
うゝんせよさてサとゝけひきゝゆゑてんとさうん
あどゝこひかゆゑてめゝさ河のせでのやゝてゆ
あどいとあゝしゝうゝひゆゑやさんうれまハ
せうゝうちゝひつてわざとゝるゝぞうさゝる
しゆゑてうそゞされゆゑひゝてゞぞりうう
ゝゝでいうきゝゝゝざうえいゝんゝをんをゝぬわゞ
あうゝさうゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるわ（原ノ）こぞうまいりまいりうばとうちぞんじめて
そしされ心しくるまでさまで狂えみび
るまじうおぼさるわるわ流ことしのまわす
ウキツキ
えさうへのこをりこぞうけべき程く心れ見よ
おぼしうじかてさうべこと用事シタメニ出シテ
れよしぬれるおしうじれたとのこあけられ
れ心ようるうるふぞくあいおきわざを（原心）
てやそうぬねこひをそうへざこうそて心の
まうしばうぐせれへのそういうんとれう
ろくしさとはがうあいきうめてへのれるあ
ことおしうべしうざうあされ心ざしとふ

もものうへれいおぼしよあふだわい紙心
おぼしえあうまじくおぼしそうさてそ
れおとりのつうそいなたしわうんわんこ
ひうそへうわいとおしらへのいまこぞう
うへうんそえいなのおぼしういんぬ
けんへとなうこあきれきえのの
やこ心おくてこうんいをうべきことでとこ
づしおぼしうよいとくあくて文大
わかどやゆうてまさてもやてるれい
ざるいうていこひもこうんやいふひあきよ
てしさしうんとあぼそあうしけうきれど

玉ノ誰ニアハセント思ヒリフ（テ）こしノ
ヨキリヒアラト
玉何紙信ニシテヨカラン
玉ノ
大中ナウゴン

わらわはてはいかにとそ
のふよさへことつけてちやうもれはのあ
ひ恋しらしやそしらつけくうそえそれ
しばらくてしあはしのこしようろうろうこ心い
わらうかりとやしくめろしていとしもうとこ
ろしはそさうべきはいくもあれくしら
ぬかどよしそうしあはてうろまよ
あいさやうつきうあまうまきろ浦へれはれさて
しえちくすすしくそうくさうさはぬ
そうあはしうしてさうべきはれく
よもうかくうらあびぬとも実しあはさしあん

心条件ナキ
恋ハ紙ノムキ近ケレト
誰ノナラヌ人ノ関ヨスケン

筑波山業山ヒケ山ニケレ
思イルニハナハラナリケリ

やくもこせぬ（婚ソレリ玉ヒトし）れぬ程のうはうさそ心
ゆるしうはうれとのつしせきあうつよ
くしもぬの心とこうそあいとあくく
て秋のしもうひ大あはくこうしさもしは
しとあはしうしいとうしぬれこと心あり
やうよく心やとしそうそうくうしくる
しんかのあうよこんひそくさんとのこざぬうさ
まようこうそうこうしはうこうしされうこ
ひあうくうのあいのしひ今のれむそあ
れとと変れ人しゆうさそうちひせもも
かぎしうこうそうこと実はよあれこ

なげいぞよあはきなくれさらしやとこひね
しとうらの雨ぞ降しひねてさし
しこよそい年ぐとしも実しぬ山ごけの
よしの人をてゆめしうるしあきくれうく
ゆどきいねしねあとぐの心ちうれしといえこ
ごあてでおとしめねやこうしまぞあしあ心ら
しうとの花おかるれ雨の屋よ人ぬうぐ
しひとこととおそいけちひうるうちよあん
ぬう無アれ文ぐいて心とぐかその花わ
ごふとうあばろけよハあしじとあん人ごを
しうわゆうとりの人ごいでそしうれあとぐの

れしをあとあるんでうわのあばしのいというごき
で人の心うれさのそうそあるあせあうしるるしぞさ
しをぐれねうぐ人ごうきい花あしく年ぐ
あしかまし行うあとぐのうらしつうぞせせ
をごい花うれ月のあばしあうさ海よおもぐし
きうう紫後よしをあしづきてけよさうぐあうし
むとうあうめでうきがわしねうひあばうき
あれをくせうくて心もとあうさるうしを
うわうるあうれどいうしれおもとのうこ立うる
こしをうせよあうきをうせてなるやうの
うんとあばゆしそれいま姫ぞんしうしせぞ

しばらのたるまもあるべしさすがよいと人
しきあるあたいの物うへてもてあいたる
らんとしひとりしたさていうぐさうほうあ
人こそまだ円寂えたらんもとうわうう
ちきてたあうしもうしんぐしうきやうい
たあるひるんうしとの物ていると姫君れば
とあるそはなしくうろうよ心にくもてる
ていうるそれうんとやそうそいぐうづ
せ女しめとて物ちうしたくうわさぐうと
しざうんうざうわいるうしぐはそあうイ
ぜひとぐし会ぐようちいれうさいたぐそいまく
辞退ん

ふやうそしあびあとかはそとかとこぐ
ちく文よいたれたぐ心やまくあんごく
ぞうめぐそきまよやうしあくうろうよ
ちたわうたてしもいうもよあうたは姫君
ひうのしたうなるうそのくひとんたぐ
さたてやたうたはあうくくうしぐ
いとらううげよさやうそきうろうぐつ
きしいとうけうおうしげあうあつさて
扇とあまうるうぐうひあと松うて
うちやれうたれうめいとかぐこうらく
しあうのどいとおうさそ忘つさあうんぐ
登ノ末月ツキロツキん

タラチネノシヤノイカメシウメヽ夫
物思フトキノワザニソアリケル

しものうしろよりわかつて行やそこうれしさを
とかどろい行くぞ　あつぎをあるく　行しかの
心もなくくえあげ　行へうまうらうげそれ
らつされなのうめるしあやれめよいとうけく
きうこうあ　孤月　て　孤しいさあ　実ゆうあとあどう
いとあてうあさ　後　ていあるのごりけふ
人ごしらくさうふ　ふこそいやしやせしあと
つよ心づひしてまりうこんあるべき
心やくうちそこうさ後よもてなりしうい
これあさわざ　手　うあうとていとさしあ
盛国スギそ身ツキモ立リナトシ　行人ナドナサシ
あうこうで　ふどうめざこよりこんたうてゐ
久ニスギ

うこんしにくしうけのくよりもなまわけ
ごとくあへぶそこしさるどけこうさやう
とそしくくをそ心うつくふいなぬわざ
なわあさ　深　くの石ごよの蛇　実　るこう
流なうそへてうげのこよそうるで
そうどく　心　コトクミキニシ　きゆしつけこどくし
くあげうくこと　過不及ナキヤウニトノシ　もあるそと
うて流あしげよさもあうこあれしどくう
て心よもそわざ　我ガコトハソレニヨセムリセノ　生得スキノ道ガアルモナレバシ　そうくこふ
とあうあしなざあひ出流後あんこ　ひ　巻　あの
人となわ　十之　文づ　生出ヲハムケフラニカシ
くよいぶこそ流こんせれ

古今ノサヌキ
祢宜コトラサノミキケニ社ヨリ
ツサニナケキノ森トたラメ

さそいてゆしろしかどのゐて
こそまんとこひしそらはうぐいすやよあり
いうぐいすかしどいそくらしぞ
かーをまんとるんくのうへ
ごとよこのいぐれゆ心ごとよ
むしくの物そ
子細アルトシ
さ段ゆるかどいとらうとこて
あよごとしかうこひてあうくさいの
まていとあーしとれさとごよしあし
あくてこそりろよとかそろもも
やうごろていうどうもろうあ

もつよあなつうあうこと
くのゆるがゆくまうてえるわんてな
まゆてそおとぐげ小の屋のいまをいよせん
さらよむうへあてさて人うそろとそう
へをくらんしいとうぐそくぬぐろあさ
やーうわうくてこあどうこれどはとよう
づべき心あるうしくのしひあそうも祢
しあ仰のれるあどよまぐらせてさル
おこのものよこれいてくのいとうまなうぬ
よいかとそるうこらくいとさいふぐわ
やしあるあどあなーて仰のえようれく

雲井ノフヨ云

[illegible]せんこゝろ[illegible]とおどいはいて[illegible]
世房おどして[illegible]ぞ[illegible]
ぜよわうさくごのことくさよはかりもせん
そうしてわしつけさやうのとわひけ
[illegible]し[illegible]るどくいとさことのかよいはくんゆ
おどのいとにおくこゝひはくんゝとよし
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ナシ石中ニ思ハアリナトラ
ヤ出ントコトノナモカキヤナ
カメクリモアルカナ

さうじれなりさこかりうをさいれなしいしき
十出ヌルモノ　大目ラコロ　ヒ出男ノウラ　上京
気多こかりれいへしやくとごとひ行うて
こうんうしかわぞ中はこひくありやそくんと
筒中
ざうえ　ニツトリトモナキテイし　泥土　下ヒ　ナキヤヒし
いまへいうさ夜じし　てうらいいちうよさせ
じよあいぞるうつきううこうてうこうう
ナレテワロクキトし　ヒキし　結ヒ　古トミフクイト
うたこのうげあるとひいのちうやあるとこ
ツウ人海し　ハテ名京
忘のあくつけさしよそこあるしうかうる
ワレクとたし　武ナニテナキトニノ
うあうそくのしといかけしぐこくとあが
カイゼミラミテ　カ鉄ノ近ク仲似ル
べくしあるぞうしよこあるしれなよ
生アイフ　カンアタメ
くくせ心つきあるしてねし行ハつさ
イニツキカト云ム
るくうあくきくるどやあるこきげくれ

こありてえううひまうでぞるとの行へど
例のこきこいどこそくてきくどあるの
ねこひうたくん弁ルあげつあくいしうこ
ふしさせしれいかつるようえんをぬどら
そをうくねひしたれとまし行ぐげよが
双六ニ　ナイ次ニテ手ノウスレヌメルメイリ　カ内
よらうつくんしあさくあさようあうう
てもこるくしをんとうひていこひどど
近ク行ヲ　シルナニテイハ
えさしもあうまうさわざるりうあべて
のたううまつくんそこあるしうしをつ
カ
ううらまでらひてくんのえくともめとも
うるくぞしもこかぬれんじ思そうべあ

はしたなくよそ人のいとしたなのるかど
そうそうさしよあれどおやそうそうれおし
てびとなるあるひあるうまてとよ
なひいうつるかぬ気多のうぐうさもとてぞ
なほいはしとくくそうへてまどらひ侍
どそそ所せうめ侍ばうあるもしたら
うまつるんとすしなへぐえ物んどれぞ
ずもしひなてげつうううぬやくあるとかく
う後さうあへうおやはけうぞんの心ものばけ
ぬのなるとそうのどのてさを侍へばば
いのちものびるんうしとやどこめされかぐぐ

若得考人聾盲瘖瘂誘斯經故獲究如是

そはるるとての給ふ古ノ生レツキトシ
らあかさるく侍ぬ世ぐうよこ母のうよ
くるしわどへ侍しぬ法寺のべくう大ご
このうぶやよ侍りくるあへしとるんあげさ侍
なへしいそひとしどもやあ別當古ハヤトバシ
ざうもいとけうのの心ふく義ありとと給
どのけばうくいうさうるんんとこそあ
りさかるれらそのつとれむらひあり
とことごもうそそ大そうそうつとう
しそくさるうしとの給てごるぐうとぐ
げよおしそうれさ後ようしをんそそづ

行基菩薩

法華経ヲ我エシヨリ、薪コリナツミ水クミ、ツカヘテノエシ

堤婆品ニ云

採菓汲水拾薪設食

ぞよ行ひ給へ。頂戴スベシトリ入ツミト

つゝうんといとしげよ今そうしさしてもけうまいひなしと名用

川ニ名用いろいろ行ひぞこし給ふ所ぞ

れあんのよしえん法の師ぞよこそくいしどゼレト

こゝとよの行ひをしてぞおかしさだ

だしと実ゆゆしいとさよげよゆこし

く恋やうけうさ海してあげろけの人にて

にくこれ行ひさとしこそてぞ生ニ月いつる女

ぜどのへし給ひ行ひんと思ひしぞ月わしき

日ふどやつゝべうんよりとく日ノルホドヨノナリトモこそいかう

を江君ノ人ヨリラセニス

行基ヨリ生ナミテ

しさもしてこそ
れだにふまでしとの
なをて
ゆかしうちうちにおぼえ
ぬるきぬ四位五位
らのいつきまて
うちうちにうきぬ
れかもしいとしいかりきれいつき
かいかりとえとうおして
ぶでわれかで
この秋ものくうるひかりにはやしき
こ炭よりおいいでうるこくの物へ
ぬ
ぬ
ぬ

指遣

アツミテヤシたし名人ノ子ハ
古ダミテヤマノ物ハイハルし

ふしとひのうわさもしぶつ（云ヤウニヨリテ）こころあん
こしまし ぞ（アテタルニ）つけ（ソウウ）きこもざ後よの紙
出うことぐこ（悪）くくこ引とぐごらてわが
まくよほうあ（ひ）ひらめれしのかとうろ
よあひうさ後よもてあ（い）いとなし
さうやたくあ（進退ガ損スルトし）（ソレハソコナハルミ）いとくあ（ハ哥ヲモヨミ玉フトし）ひあくし
あぐぞそそりぐ（ソコノアカズレモフ上世板ノ事ニ）あまわもとそ忘ひもぬ哥
らうくうらけぐあ（ぎ）しぎて（ぎ）せゆどの
よあしとの紙へうと（ガ）ぎ（ぎ）くあうさ後あぐぐ
め（ガ）ぬくもそあぐせ（世）よさうまうぐん（わ）あぐれ元
天下（ソコノアカズレモフ上世板ノ事ニ）よあぐそこうしけ（世）いうくぐのそけあう

（フキテンドリ）

（指）

もてあ（ぎ）ぬ（ん）よ（ハ）後れうらよ（ハ）くそうか
しやとの紙（世）ぬあぐしの紙（ぎ）ぬ（ぎ）ぬうらうあうや後
げ（ぎ）れ文（ぎ）ぬ紙（ぎ）ぬ（ぎ）ぬ（ぎ）ぬうぎ紙よハ
さうひあぐぐ（ぎ）いまぐでげ（ヨリハ）（モヨラス）しぐぐわれし（カケムハナ）（ヤリヨラキテ）
ふしもぬぬぐ（ぎ）ふぐその関とやきへさ紙け
うんとあん（ぎ）ぬぐぐしぐ（ハ天ニキトし）和といぐ（ハ上ノ中ハ天ニキトし）ぐしたド
しこうれぐあれ（ぎ）しこくぐとてんぐら
て文（ぎ）うよハ後（ぎ）やうれよも系うんと
こひ後へうぐ（ぎ）いとふよハ（ハユルハヤトし）りやぬんぐで
やくあやし（アシキ）ぬ（ぎ）ぬ（ぎ）ぬ（ぎ

えんがん田子の浦浪多又見
アレトモ君ヲコヒ又日ハナし

三月しゐ大河ゝの友ヒ
ナミニ思ハ我コヒヤハ

草わけ

草わけしひられたるのいとゞさいで
あひうん女この浦浪翠うハ多れとなのと花
ちさうしひとうひよりてきうゞらよいれ
ふてのそれそらゞこしもえてぞゝゞよひらき
ざ女しこもゞ（レモナガイ）かゞよわうそくめ（立へ）ぞゝゞ（め）
とゞゞわれ行ゝしゞ女よそゞらひてふれ
ゆべくこゆうとゞ（ゞ）うゞゝこてゞさそゞよて
かゞくらいさくまさじそひてゞこれ
よつけうわひそ女しわゞゝ（下せし）（シモハテニハベし）ことあれ
てきゞけあうい女多うあうゞ世御れ
しのゞいうん所よゞうわてこゞ（下壹）れ多ゝ世ゞ

ゞ（数ノ）ゞこもづゝ（ゞ）ゞとてれ世ゆゞうわうゞ御れゆい
ようふゞ女ゞうハあうゞゞうとてゞきこゞれきこ
とゞゞゝもて多うてひきとゞさてれらんゞさ
そ世れゆゞゞうて多ゆとゞ世ゞゞるゞと中納言れ
ゞゝとゞゞゝゞゞうゞひてそゞゞくみ
ゞゞゝ（第三日）いまゞゝこれゞゞ文の色多ゞも行れ
とゞゆゞゞげよゞゞうれゞゞさうれゞゞいえゞゞ（秋心）
らゞゞゞ

ゆかしうて思うらわしいぬれぬれうへで（使 ゆかし）
ちさいことのそらよれし（哥ノ面白サニ）まつられて物のあはれで
ものしたせにくるそせんじがきりかきていと
めしうんとてくれにあとめさてくる（文句）うさ
えてあさあるつなかさいうしくく
ひさらかなら（四ケ月ノ名アリ）ものうれしうの（立出ヨニツトエガリし）そ風れしうよ浪
うらいでよしこざされ（待おトミヒトヨムんニ）れとうさてよこここ
ゆしもあれうてまことようつしれもそ
いひあせとうこ（ニ）いうけよあはひうれしで
（哥ノ面白キ）それしさうんくわ（作歌ノ手ニテハ五七七ノ文ノキコエトし）さまへ物のんとてそ（メテ文し）
てしてぶしつれ（ニ）うこうて（ア）（面白キトし）れたらい

さやまうとの物へうとてけてあまへいろあ（蜜ノスギメルハアシキし）
さりのうををしうさあの物てあ所にと
つりのいとあうしよういつけてうしけづうれ
くうい物へうさうこうにさうこうのい
ざをしつさうわが（我）前のつどうをいう
こをしあんう